

CORONA

密閉式石油ストーブ 取扱説明書

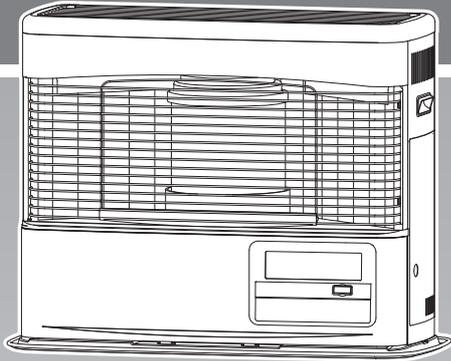
〈保証書付〉保証書は裏表紙に印刷されています。

お客様へ

本製品は消費生活用製品安全法(消安法)で指定される特定保守製品です。
法定点検を受けるために所有者登録を行ってください。
(製品に同梱した「所有者票」に記入し投函願います。)

正しく使って上手に節約

型式 ^{エフエフ} **FF-6818PR** ^{ピーアール} **FFタイプ**
^{ユーエイチ エフ} **UH-F7018PR** ^{ピーアール} **UH-Fタイプ**
FF式輻射
FF式輻射+床暖



このたびは、コロナ石油ストーブをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

もくじ

	ページ
1.特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください) ※灯油の廃棄について	1~4 4
2.使用する場所	4
3.各部の名称	5~7
●外観図・構造図	5
●表示部の名称と働き	6
●操作部の名称と働き	7
4.使用前の準備	8~10
●燃料	8
●給油	8
●運転開始前の準備と確認	9~10
5.使用方法(使い方)	10~19
●運転開始(点火)	10~12
●運転停止(消火)	12~13
●消火後、再点火するときの注意	13
●室温の調節(自動運転)	13
●火力調節(手動調節-手動運転)	13
●エコ運転	14
●床暖パネルの温度調節	14
●給水お知らせ	15
●現在時刻の合わせ方	15
●タイマーの使用方法	16~17
●灯油使用量	17
●使用上の注意	18
●自己診断モニタについて	19
6.安全装置	20
7.その他の装置	21
8.日常の点検・手入れ	22~24
9.定期点検	24
10.故障・異常の見分け方と処置方法	25~26
11.部品交換のしかた	27
12.保管(長期間使用しない場合)	27
13.仕様	28~29
14.アフターサービス	29
15.据付け・移設	30~32
■お客様ご相談窓口	34
■保証書	裏表紙



1. 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただきあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

	このマークは、「注意」していただく内容です。
  	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
 	
 	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。

警告 (WARNING)

● ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも火災の原因になります。



● スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを温風のあたるところに放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。



● 給排気筒(管、ホース)外れ危険

給排気筒(管、ホース)が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



● 低温やけどに注意 (UH-Fタイプ)

長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。比較的低温 (40~60℃) でも低温やけどや脱水症状の原因となります。



● 給排気筒トップには金網などは付けない

給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けないでください。給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があります危険です。



● ご自身での据付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。(ストーブを移設させる場合も同じです。)



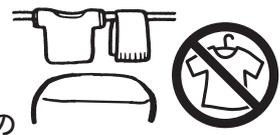
● 定期点検の実施

定期的 (2年に1回程度) に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者のいる店に依頼してください。



● 衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。



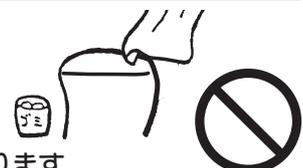
● 温風吹出口をふさがない

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。



● 可燃物近接厳禁

カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据付け例 (30ページ) を参照してください。



● 給排気筒トップ閉そく危険

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたまま使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠注意(CAUTION)

●給油時消火

火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください



●油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。



●ゴム製送油管の点検・交換

ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などが無い場合でも3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。

交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。



●異常・故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の色(赤火)、エラーを繰り返すなど異常や故障と思われるときは使用しないでください。事故の原因になります。

「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処置してください。



●温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

●特にお子様やお年寄り、体の不自由な方が使われるときは、周囲の人が十分注意してください。



●高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部(枠上部、前面ガードなど)、給排気筒(給排気筒トップ)に手などふれないでください。やけどのおそれがあります。

●小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。



●やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。

振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。



●分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。

不完全な修理は、危険です。



●腰をかけたたり物をのせない

ストーブの上ののったり、腰をかけたたりしないでください。ストーブの故障や、やけどのおそれがあります。ストーブの上に花瓶や水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



●電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり束ねたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



●電源の接続

電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。電源コードは、途中で接続したり、延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。



1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠注意(CAUTION)

●電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。



●長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。



●電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりおよび金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



●灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
ガソリンなどと一緒に保管しないでください。
誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



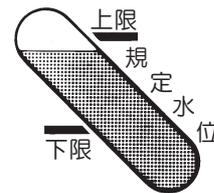
●不良灯油使用禁止

変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。



●シスターンの水位に注意 (UH-Fタイプ)

循環液は少しずつ蒸発します。
1ヶ月に1回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は補充液を補給してください。
上限水位以上は、入れないように注意してください。



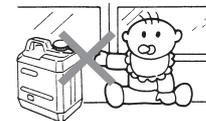
●カーペットのはがれに注意 (UH-Fタイプ)

カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。
床パネルに直接接触するとやけどのおそれがあります。



●循環液(循環水・不凍液)の保管に注意 (UH-Fタイプ)

幼児の手の届かない所に保管してください。
万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。



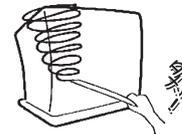
●給排気筒付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。



●指や異物を入れない

温風吹出口や空気取入れ口の中に、指や異物を入れないでください。
けがや火災の原因になります。



●初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。
しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。
また、小鳥や小動物などに影響する場合がございますので、この間は部屋に入れしないでください。



●外出する時は消火

外出するときは、必ず運転を停止し消火してください。



●特殊用途には使用しない

食品・精密機器・美術品の保存や、動植物の飼育・栽培などには使用しないでください。



1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

お願い (NOTICE)

●機器を廃棄するときの注意

ストーブを廃棄処分するときは、必ず定油面器の灯油を抜き取ってください。
灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。
必ずお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口
に依頼してください。

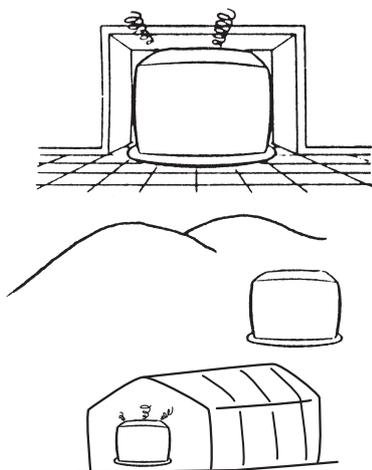
●灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2.使用する場所

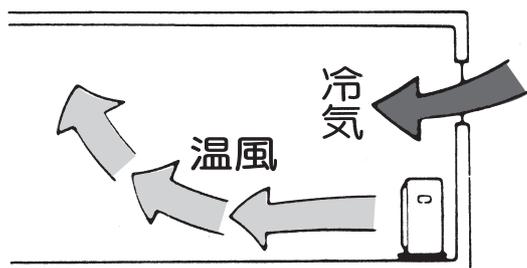
ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために



- マントルピースやペチカに据付けないでください。給排気筒をペチカに接続しないでください。ストーブが故障したり、火災や予想しない事故の原因になります。
- 空気不足となり、異常燃焼の原因になるので標高が1000mを超える高地では使用しないでください。
- クリーニング店、美容院などの化学薬品を使用する場所では使用しないでください。化学薬品などの影響により、異常燃焼や故障の原因になります。
- 温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- 水平でない場所、不安定な場所では使用しないでください。
- 不安定な物をのせた棚などの下には使用しないでください。
- 可燃性ガスの発生する場合またはたまる場所には使用しないでください。
- 階段、避難口などの付近で避難に支障となる場所には使用しないでください。

効果的に使用するために



- 外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので効果的です。

出入口など人の通るところは、ぶつかると危険ですので避けてください。

- 部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

ご注意 ストーブの前面に障害物を置かないでください。

- 障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ストーブ本体の温度が上昇して危険です。

UH-Fタイプ

- ストーブ前面からふく射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。
- 温水配管の長さができるだけ短くなるような位置にストーブを配置してください。

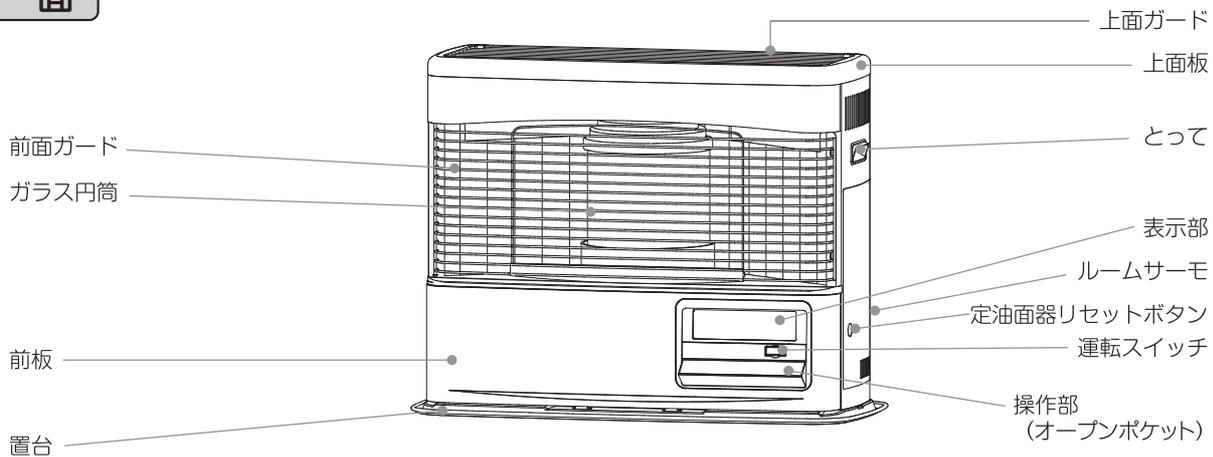
3.各部の名称

外観図

は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

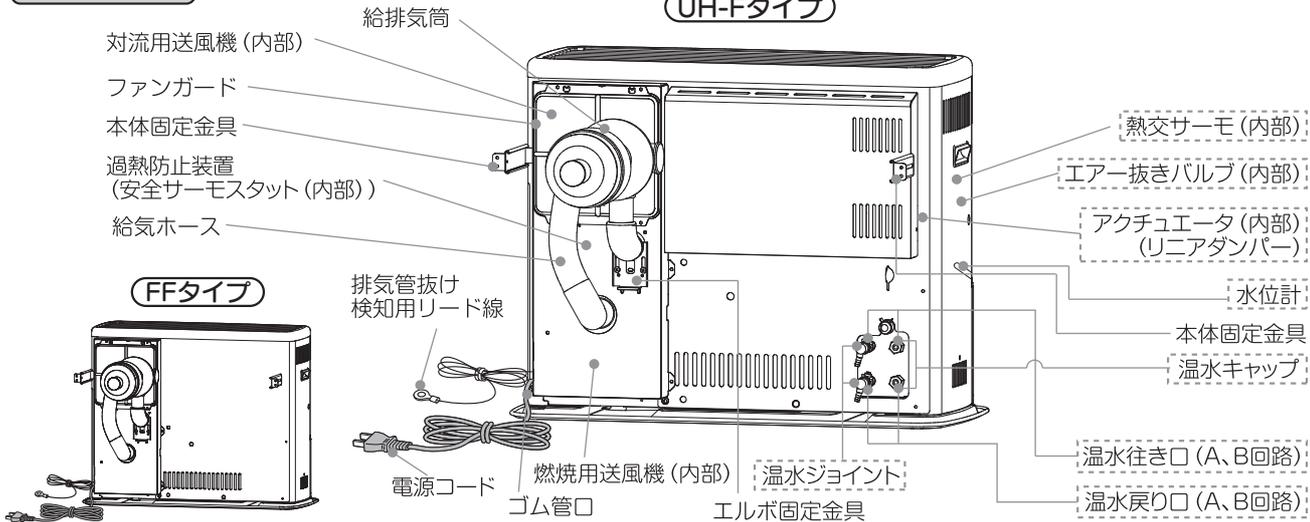
正面

FFタイプ UH-Fタイプ



背面

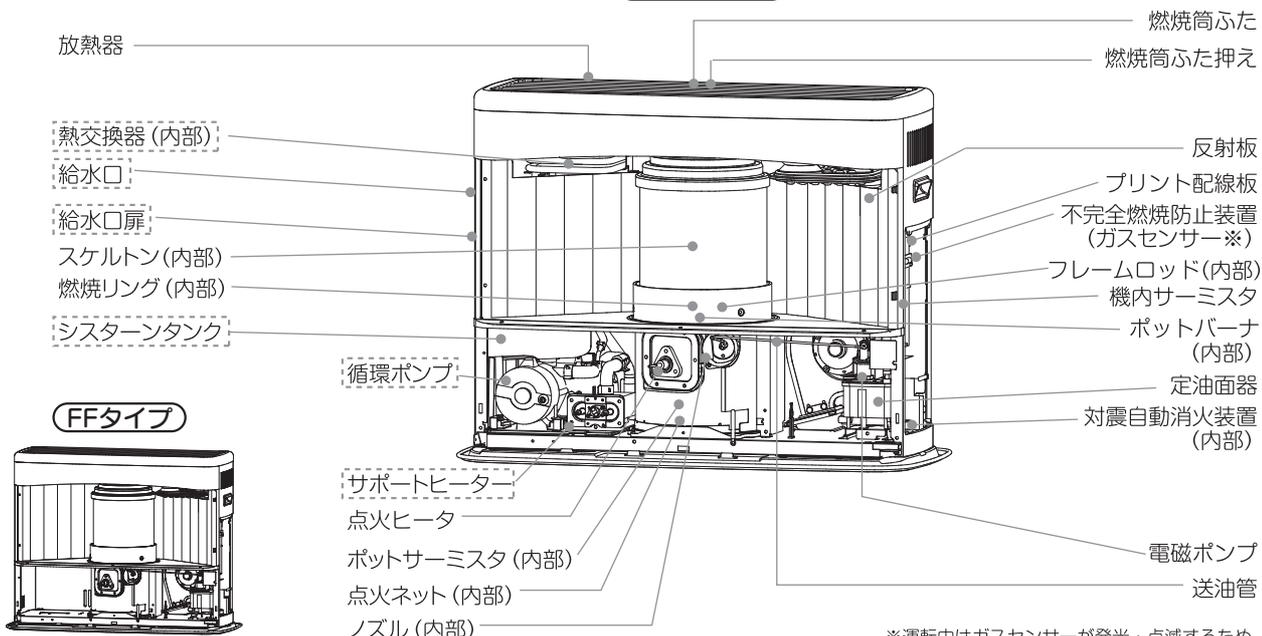
UH-Fタイプ



構造図

は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

UH-Fタイプ

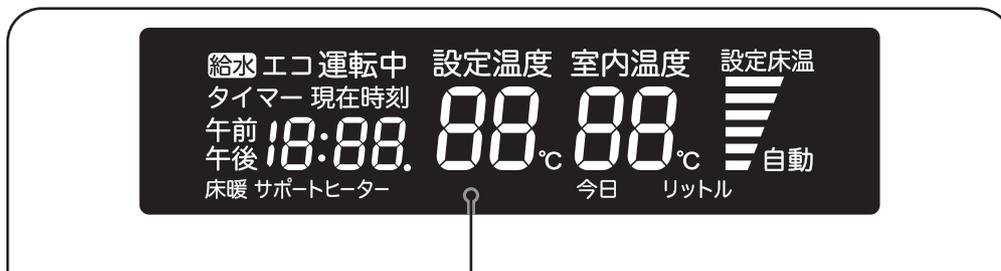


※運転中はガスセンサーが発光・点滅するため、隙間から光が見えることがあります。

表示部の名称と働き

表示部 ★イラストは説明のため全部表示した状態にしてあります。

UH-Fタイプ



項目	デジタル表示部		
現在時刻表示 温度表示		<ul style="list-style-type: none"> ●自動運転中 <ul style="list-style-type: none"> ・現在時刻表示 ・設定温度表示 (10 ~ 30℃) ・室内温度表示 ・「自動」表示 ・火力をグラフで表示 	時計 / タイマー 合せボタンを 押すことに表示が 切り換わります。
		<ul style="list-style-type: none"> ●手動（固定火力）運転中 <ul style="list-style-type: none"> ・現在時刻表示 ・室内温度表示 ・火力をグラフで表示 	
現在時刻表示 再通電表示		<ul style="list-style-type: none"> ●停止中 <ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグをコンセントに差し込んだときや 停電後の再通電のときの表示 	1 2 3
現在時刻合せ表示		<ul style="list-style-type: none"> ・“現在時刻”点滅 左図は午前8時30分にセットの例 5秒以上放置すると①に戻ります。 	
タイマー 合せ表示		<ul style="list-style-type: none"> ・“タイマー”点滅 左図は午前6時30分にセットの例 5秒以上放置すると①に戻ります。 	
灯油使用量表示		<ul style="list-style-type: none"> ・「灯油使用量」ボタンを押したときの表示 左図は今日1日3リットル使用の例 	
記号表示 (自己診断モニタ)		<ul style="list-style-type: none"> ・(例) E3表示：対震自動消火装置の作動 ※再度、点火操作をしてください。 その他の自己診断モニタ表示については 19~21ページを参照してください。 	

FFタイプ



■エコサイン

エコサイン(火力)	時間	●「エコサイン」で灯油1リットルあたりの 運転時間がわかります。 各火力での1リットルあたりの運転時間 (数値はめやすであり、実際の使用時間 とは異なる場合があります。) → 微少運転は、灯油1リットルで約4.5時間 運転できて経済的です。
最大	1.3	
	1.5	
	1.8	
	2.3	
微少	4.5	

■表示部の明るさ調節

●温度設定ボタン▲を押しながら▼を押すことにより、表示部の明るさを三段階に調節することができます。

■運転停止中およびタイマー運転中は表示が暗くなります。

●運転停止中も表示を明るいままにできます。

- ・温度設定ボタン▲を押しながら時計/タイマー合せボタンを押してください。
1分以上経過しても表示が暗くならないことを確認してください。
- ・もとに戻したい場合は、同じように温度設定ボタン▲を押しながら時計/タイマー合せボタンを押してください。

3.各部の名称

操作部の名称と働き

■オープンポケットの開閉

●オープンポケットを軽く押しこむと、ゆっくり開きます。操作後、軽く押しもどすとロックして止まります。

操作するとき以外は、閉じてご使用ください。

■操作音について

- 操作ボタンを押すとピッと音がします。
- 誤操作をするとピッピーと音がします。

操作部

時計/タイマー合せボタン 15・16ページ

- ・現在時刻合せ、およびタイマー合せの設定切り換えをします。
- ・押すごとにデジタル表示が切り換わります。

時計/タイマー合せボタンを押す前の表示

運転時：温度表示・時刻表示 → 現在時刻合せ → タイマー合せ

停止時：時刻表示

- ・5秒以上操作が無い場合は時計/タイマー合せボタンを押す前の表示に戻ります。
- 操作音 切換：ピッ 戻る：ピビッ

エコボタン 14ページ

- ・エコ運転のセット・解除をするときに押します。

操作音 セット：ピッ
解除：ピビッ

※ 床暖切換スイッチ 10～12ページ

- ・「ストーブ床暖」運転と「ストーブ単独」運転を切り換えます。

タイマーボタン 16・17ページ

- ・タイマー運転のセット・解除をするときに押します。

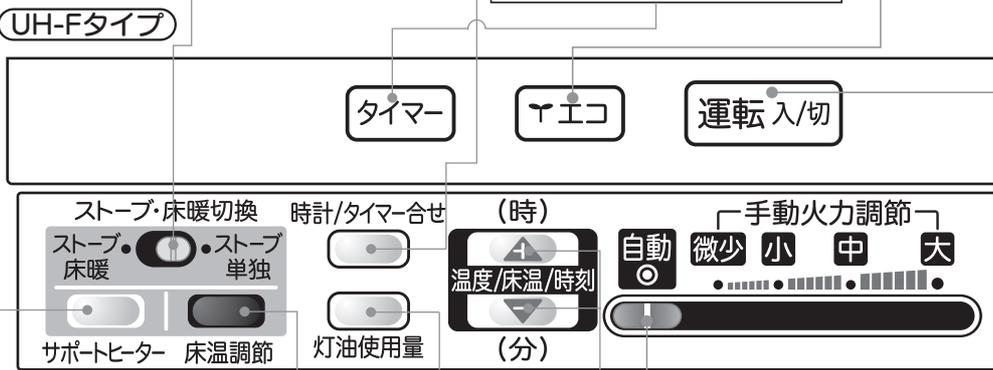
運転スイッチ 10～12ページ

- ・運転/停止をするときに押します。

操作音 運転：ピッ
停止：ピー

火力調節つまみ 13ページ

- ・火力調節つまみを「微少」～「大」の間で動かし火力をリニアに手動調節します。
- ・火力調節つまみを「自動」に合わせるとルームサーモによる自動運転（温度設定ボタンで室温を設定）ができます。



※ サポートヒーターボタン 11・12ページ

- ・「ストーブ床暖房運転」または「サポートヒーター運転」をするときに押します。

※ 床温調節ボタン 14ページ

- ・床暖パネルの温度調節をするときに押します。

灯油使用量ボタン 17ページ

- ・「今日」の灯油使用量を確認するときに押します。

灯油使用量ボタンを押す前の表示

運転時：温度表示
時刻表示 → 今日の灯油使用量

停止時：時刻表示

- ・10秒以上操作が無い場合は灯油使用量ボタンを押す前の表示に戻ります。

温度設定ボタン 13ページ

- ・火力調節つまみを「自動」にするとルームサーモによる室温設定（10～30℃）ができます。
- ▲ …設定温度を1℃上げる(操作音：ピッ)
- ▼ …設定温度を1℃下げる(操作音：プッ)

※ 床温設定ボタン 14ページ

- ・温水出口温度を27～70℃の範囲に設定します。
- ▲ …設定温度を6℃上げる(操作音：ピッ)
- ▼ …設定温度を6℃下げる(操作音：プッ)

FFタイプ



時刻設定ボタン 15・16ページ

- ・現在時刻、タイマー時刻を合わせるときに押します。
- ▲ (時)…時合せ(操作音：ピッ)
- ▼ (分)…分合せ(操作音：プッ)

お願い

- はじめてお使いになる前に
輸送時の傷を防止するために、表示部と操作部の表面には保護フィルムが貼ってあります。ご使用前に取り除いてください。コーナー部分にセロハンテープを貼り付けて、いっしょにはがすとより簡単に取り除けます。（保護フィルムはストーブの設置工事の際に、はがしてある場合があります）

4.使用前の準備

燃 料

燃料は灯油（JIS 1号灯油）を必ず使用してください。

警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

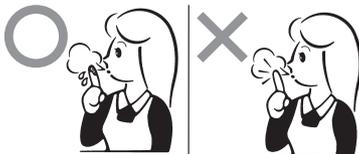
注意 不良灯油（変質灯油、不純灯油）は絶対に使用しないでください。
点火、消火しにくくなったり、燃焼が悪くなってすすが出たり、製品の寿命を縮めます。

注意 灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
(火の気のない所で行ってください。)



灯油は
ぬれたまま

ガソリンは
すぐ乾く

不良灯油（変質灯油・不純灯油）とは…

昨シーズンより持ち越しの灯油



日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油



水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかでも混入した灯油



- 極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、ストーブの故障の原因になります。

- 油の程度にもよりますが、燃焼不良をおこしたり、ストーブの損傷を早め、故障の原因になります。
- 水やごみが送油経路に流れこみ、油漏れや燃焼不良・着火不良の原因になります。

変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用したときは…

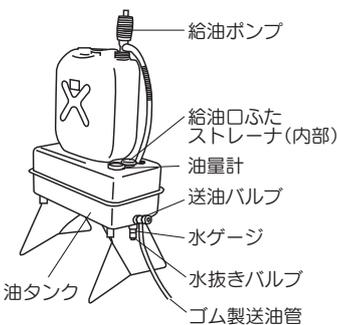
- お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

ご注意

- 変質灯油、不純灯油などの不良灯油が原因で修理をされたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買い求めの販売店にご相談ください。

給 油

給油の際の手順と注意



注意 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

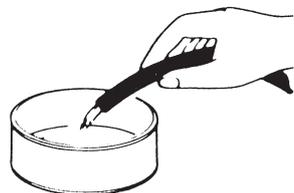
- 送油バルブを閉じて給油口ふたを外し市販の給油ポンプで給油してください。
油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
給油後は、給油口にあるストレーナを取り出して、水やごみがたまっていたら掃除してください。
- ストレーナを取り付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。
- 給油の際は、水・ごみなどを入れないように注意してください。
水・ごみなどは燃焼不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。

油タンクを空にすると、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。

このような場合は次の順序で空気抜きをしてください。

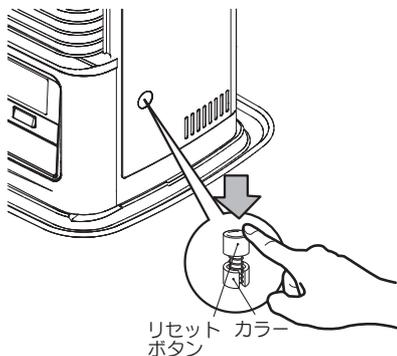


1. 送油バルブを閉じて油タンクに給油します。
2. ストーブのゴム管口からゴム製送油管を外します。
3. 送油バルブを開け、ゴム製送油管から灯油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。
(灯油がこぼれないように容器を用意してください。)

4. 使用前の準備

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱い上の注意



定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、右側面の穴から見える定油面器リセットボタン（赤色）を軽く押し下げてください。

ご注意

- リセットボタンは据付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一、点火操作後灯油が出ずに自己診断モニタ[E1]または[E2]が表示されるような場合はリセットボタンを押してください。（安全弁が外れ、灯油がスムーズに流れます。）
- リセットボタンは乱暴に扱ったり、5秒以上押したままの状態や何回も押さないでください。定油面器から灯油があふれたりすることがあります。

■送油経路の油漏れの確認

注意 油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよび機器などから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

- 油漏れのあるときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてからお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

■電気配線の確認

注意 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

- 電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…

- 電源は必ず適正配線された单相100Vコンセントを使用してください。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードを使用しないでください。
- 他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

■点火の要領と注意 (UH-Fタイプ)

床暖切換スイッチのセット

ストーブ単独で運転する場合は「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転を行う場合は「ストーブ床暖」に、床暖切換スイッチをセットしてください。床暖切換スイッチのセットは運転開始前に行ってください。

- ストーブ床暖房で運転する場合

- ストーブ単独で運転する場合



■運転中に床暖切換スイッチを操作した場合の注意

- **ストーブ単独→ストーブ床暖** …自動的に一旦消火して、約10分後に再点火し、ストーブ床暖房運転を開始します。そのとき、「ジュー」という循環液の蒸発音が発生することがありますが異常ではありません。
- **ストーブ床暖→ストーブ単独** …運転はそのまま続きます。しばらくして「ジュー」という循環液の蒸発音がしますが異常ではありません。

循環液の水位確認



- ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位（上限水位と下限水位の間）まで循環液（コロナ床暖房用循環液）が入っていることを確認してください。循環液が入っている場合は黄色になります。水位が下限以下の場合は、「日常の点検・手入れ」（24ページ）を参照し床暖房専用補充液を入れてください。循環液は上限以上入れないように注意してください。循環液を上限以上入れると使用中に循環液があふれることがあります。

温水配管の水漏れの確認

- ストーブ内部や温水配管接合部から水漏れがないか確認してください。
- 床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

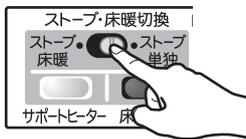
5.使用方法（使い方）

運転開始（点火）

点火順序

FFタイプ UH-Fタイプ

ストーブ単独運転



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に合わせてください。（UH-Fタイプのみ対象です。）
2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。「運転中」表示が点滅します。約3～4分間の予備燃焼が終わると「運転中」表示が点灯に変わり本燃焼になります。



※表示は「自動運転」の場合です。

※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。

この間は火力の変更はできません。

●予備燃焼時に黄色い炎（赤火）が混じる場合がありますが、異常ではありません。

●比較的暖かい時期など、設定室温より室温が上がりすぎるときにはエコ運転をご使用ください。

消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。

●ガラス円筒がすすけた場合は「ガラス円筒内部の掃除」（23ページ）を参照し、すすを除去してください。

●本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

5.使用方法(使い方)

運転開始(点火)

UH-Fタイプ

ストーブ床暖房運転



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
「運転中」が点滅します。
約3～4分間の予備燃焼が終わると「運転中」表示が点灯に変わり本燃焼になります。



※表示は「自動運転」の場合です。

※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。
この間は火力の変更はできません。

- 予備燃焼時に黄色い炎(赤火)が混じる場合がありますが、異常ではありません。
- 比較的暖かい時期など、設定室温より室温が上がりすぎるときにはエコ運転をご使用ください。消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。
- ガラス円筒がすすけた場合は「ガラス円筒内部の掃除」(23ページ)を参照し、すすを除去してください。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

UH-Fタイプ

サポートヒーター運転

- サポートヒーターは電気ヒーターです。春先や秋口などの足元が少し寒く感じる時にサポートヒーター運転のみで快適な床暖房運転ができます。



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
2. サポートヒーターボタンを押してください。
「サポートヒーター」と「設定床温」表示が点灯し、運転を開始します。



※サポートヒーターの通電を停止すると表示が消灯します。

- サポートヒーター運転の消し忘れを防止するため、操作後8時間で自動停止します。

5.使用方法(使い方)

UH-Fタイプ

ストーブ床暖房・サポートヒーター併用運転

●ストーブ床暖房プラスサポートヒーターで床暖房能力をアップできます。



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
「運転中」が点滅します。
3. サポートヒーターボタンを押してください。
「サポートヒーター」表示が点灯し、運転を開始します。
約3～4分間の予備燃焼が終わると「運転中」表示が点灯に変わり本燃焼になります。



※表示は「自動運転」の場合です。

※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。

この間は火力の変更はできません。

●予備燃焼時に黄色い炎(赤火)が混じる場合がありますが、異常ではありません。

●比較的暖かい時期など、設定室温より室温が上がりすぎるときにはエコ運転をご使用ください。

消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。

●ガラス円筒がすすけた場合は「ガラス円筒内部の掃除」(23ページ)を参照し、すすを除去してください。

●本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

運転停止(消火)

消火順序



UH-Fタイプ

サポートヒーター運転



運転スイッチを押して「切」にしてください。

●時刻表示以外のすべての表示が消灯し、消火します。

●消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機、

※循環ポンプ(ストーブ床暖房運転のみ)が停止します。

※印は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

再度、サポートヒーターボタンを押してください。

●時刻表示以外のすべての表示が消灯し、サポートヒーター、循環ポンプが運転を停止します。

5.使用方法(使い方)

運転停止(消火)

UH-Fタイプ

ストーブ床暖房・サポートヒーター併用運転



再度、運転スイッチを押して「切」にしてください。

- 時刻表示以外のすべての表示が消灯し、消火します。
- 消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機、対流用送風機、循環ポンプが停止します。

注意 2日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。

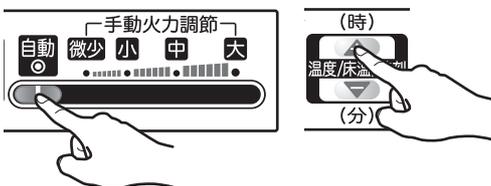
- 外出のときは、必ず運転を停止(消火)してください。
- 運転中は電源プラグを抜いての消火はしないでください。ガラス円筒にすすがついたり、ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 運転停止後、燃焼室が冷却するまでは電源プラグを抜かないでください。ガラス円筒にすすがついたり、ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

消火後、再点火するときの注意

- 燃焼中に誤って電源プラグを抜いたり、運転スイッチを「切」にすると再点火安全装置の働きでストーブが冷却されるまでの約2分間は再点火できません。
ただし瞬間的な消火操作(約1秒以内)の場合は、そのまま燃焼が継続されます。

室温の調節(自動運転)

ルームサーモにより、設定温度に応じて自動的に火力調節を行います。設定温度は10~30℃の間で設定できます。次のように設定してください。



火力調節つまみを「自動」に合わせてください。「自動」表示が点灯します。

- 温度設定ボタン▲を押すと1℃上がります。(上限30℃)
- 温度設定ボタン▼を押すと1℃下がります。(下限10℃)

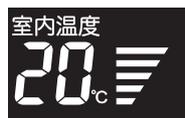
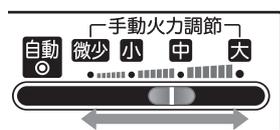
注意 ●室温調節はストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも表示部の設定温度とは一致しない場合があります。



- 自動運転時に微少火力でも室温が設定室温より上昇する場合は、設定室温より3℃上昇すると自動的に消火するエコ運転をおすすめします。(14ページ エコ運転の項参照)
室温が設定室温より3℃上昇すると消火し、お部屋のムダな暖めすぎをおさえます。

火力調節(手動調節—手動運転)

室温設定による自動運転の他に、火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。



- 火力調節つまみを「微少」~「大」の間のご希望の位置に合わせてください。火力調節つまみの設定火力で燃焼します。

〈床暖房運転時の手動火力調節について〉(UH-Fタイプ)

- 本ストーブの床暖房能力は使用火力によって変化します。パネル敷畳数が多い場合火力調節が低いと床暖/パネルが温まらないことがあります。お使いのパネル敷畳数をご確認の上、下記の表をめやすに火力の調節をしてご使用ください。

畳数	3	4	5	6	7	8	9	10
火力	微少	小火力	中火力	大火力				

炎の状態

ストーブの据付けや煙突の設置条件で、炎は多少変化します。

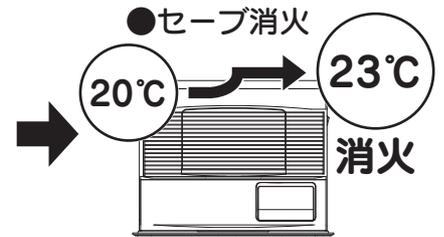
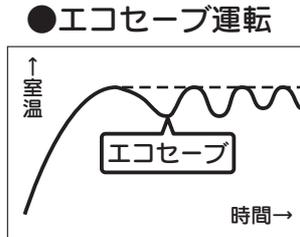
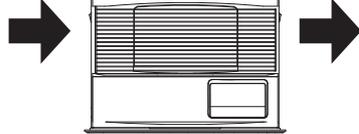
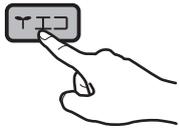
- 燃焼中の炎に黄色い炎(赤火)が混じったり、かたよったり、上下変動することがありますが異常ではありません。
- ホコリなどを吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。

エコ運転

自動運転時にエコボタンを押すとご希望の設定室温に切り換わり、ムダな暖めすぎをおさえ、経済的で快適な室温を保ちます。また、自動運転時は最大火力を70~90%、手動運転時は最大火力を80~90%におさえてお部屋を暖めすぎないように運転します。

自動運転時 (設定室温20℃の場合)

●エコ運転



エコボタンを押すと設定温度が20℃に切り換わります。

最大火力を70~90%におさえて室内を暖房します。

ムダな暖めすぎをおさえ、快適な室温を保ちます。

室温が設定温度より約3℃上昇すると消火し、設定温度以下になると再点火します。

※設定温度の初期設定は20℃です。設定温度は、温度設定ボタンで10~30℃に変更できます。

- 室温が20℃未満で30分以上運転した場合は、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が20℃以上の場合、最大火力を80%におさえて運転します。
- 室温が24℃以上で30分以上運転した場合、(設定室温を22℃以上に設定)最大火力を70%におさえて運転します。

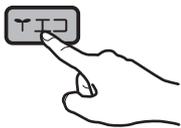
●エコ運転でセーブ消火がくりかえされるとガラス円筒にすすがつくことがあります。ときどきエコ運転を解除し、火力を中~大で1~2時間燃焼させてください。

手動運転時

※火力調節つまみが「中」~「大」のときエコ運転をします。

- 室温が20℃以上の場合、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が24℃以上で30分以上運転した場合、最大火力を80%におさえて運転します。

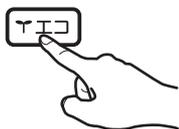
■エコ運転方法



エコボタンを押してください。

- 「エコ」表示が点灯し、エコ運転に入ります。
- 室温が設定温度より約3℃上昇すると消火(セーブ消火)します。

■エコ運転の解除



再度、エコボタンを押してください。

- 「エコ」表示が消灯し、エコ運転を解除します。
- エコ運転を解除するとエコ運転前の設定温度に戻ります。

床暖パネルの温度調節 UH-Fタイプ

床暖房運転の場合は、循環液が設定温度になるように温度調節します。また、設定床温は6段階にグラフ表示します。グラフ表示3つ目は、床暖パネルのカーペット表面をほぼ33℃(床暖パネル3畳の場合)に保つ循環液温度を示します。



- 床温調節ボタンを押してから床温設定ボタン▲▼を押すと次のように床温調節でき設定床温表示グラフも移動点灯します。

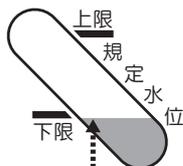
- ・▲ …… 1回押すと設定温度を6℃上げ、グラフ表示が上に移動。
- ・▼ …… 1回押すと設定温度を6℃下げ、グラフ表示が下に移動。

- 床暖パネルの温度調節は「設定床温」表示が点滅・点灯中に設定できます。

- 設定床温は床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は設定温度または、火力調節つまみで行ってください。カーペットの表面が熱くなりすぎないように設定床温には、十分注意してください。

5.使用方法(使い方)

給水お知らせ UH-Fタイプ



- ストーブ床暖房運転中またはサポートヒーター運転中にシスターンタンク内の循環液が少なくなると「給水」表示が点灯し、お知らせ音(ピピピッ)でお知らせします。「給水」表示は循環液を補給するまで点灯し続けます。
- 「給水」表示が点灯したら「日常の点検・手入れ」(24ページ)を参照し、シスターンタンクに床暖専用補充液を補給をしてください。「給水」表示は床暖房専用補充液を規定水位まで補給を行うと消灯します。

現在時刻の合わせ方



- 現在時刻は工場出荷時に合わせてありますが、多少ずれることがあります。時刻がずれている時は、次の手順で合わせてください。
 1. 時計 / タイマー合せボタンを押して「現在時刻」表示にします。
 2. 時刻設定ボタン▲(時)▼(分)を押して現在時刻を合わせます。1回押すと▲(時)は1時間、▼(分)は1分進みます。ボタンを押し続けると、表示は連続して変わります。
(時刻設定は「現在時刻」が点滅中に設定できます。5秒間操作がない時、デジタル表示は自動的に時計 / タイマー合せボタンを押す前の表示に戻ります。)「現在時刻」表示が消灯したときに時計動作が開始します。

例：午前6時15分に合わせる場合

- ① ▲(時)ボタンを押して“午前6：00”にします。
- ② ▼(分)ボタンを押して“午前6：15”にします。



午前 6:00



午前 6:15

タイマーの使用法

■タイマーセット時刻の合わせ方



1. 時計 / タイマー合せボタンを2回押して「タイマー」表示にします。
●タイマーセット時刻未セットの場合、初期表示は午前5時となります。
2. 時刻設定ボタン▲(時)▼(分)を押してタイマーセット時刻を合わせます。
1回押すと▲(時)は1時間、▼(分)は5分進みます。
ボタンを押し続けると、表示は連続して変わります。
(タイマー時刻設定は「タイマー」が点滅中に設定できます。
5秒間操作がない時、デジタル表示は自動的に時計 / タイマー合せボタンを押す前の表示に戻ります。)

例：午前6時30分に合わせる場合

- ① ▲(時)ボタンを押して“午前6：00”にします。 ② ▼(分)ボタンを押して“午前6：30”にします。



■タイマー運転方法

FFタイプ (UH-Fタイプ)



1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
(運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。)
2. ご希望の設定温度または、火力に合わせてください。
3. ＊ストーブ単独運転をする場合は床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転をする場合は床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」にしてください。
4. ＊ストーブ床暖房運転をする場合は床温調節ボタンを押してから床温設定ボタンを押してご希望の設定床温に合わせてください。
※印は(UH-Fタイプ)のみ対象です。
5. タイマーボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、「タイマー」表示が点灯し、タイマー運転に入ります。
●運転中の場合は、運転が停止します。

UH-Fタイプ

ストーブ床暖房・サポートヒーター併用運転



1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
2. 運転スイッチとサポートヒーターボタンを押してください。
「サポートヒーター」表示が点灯します。
(運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。)
3. ご希望の設定温度または、火力に合わせてください。
4. 床温調節ボタンを押してから床温設定ボタンを押してご希望の設定床温に合わせてください。
5. タイマーボタンを押してください。
タイマーセット時刻が表示され、「タイマー」表示が点灯し、タイマー運転に入ります。
●運転中の場合は、運転が停止します。

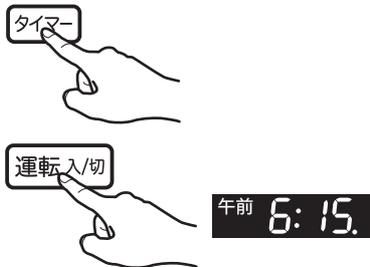
- 外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、絶対にしないでください。
- タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
- 運転スイッチが「切」のとき、タイマーボタンを押すとタイマーセット時刻が表示されます。
- タイマー運転中にサポートヒーターボタンを押すとサポートヒーター運転になります。
- タイマー運転中はタイマーセット時刻表示の明るさ(輝度)が落ちます。
- タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。
- タイマー運転設定後に停電があった場合や、対震自動消火装置が作動した時は、タイマー運転が解除され、点火しません。

5.使用方法(使い方)

タイマーの使用方法

■タイマー運転の解除

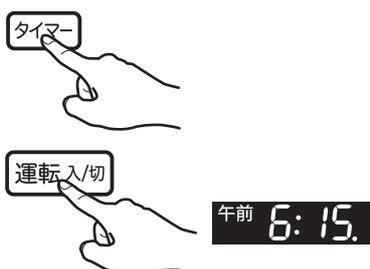
FFタイプ UH-Fタイプ



1. 再度、タイマーボタンを押してください。
「タイマー」表示が消灯し、表示部に現在時刻が表示され(時計動作ドット点滅)、タイマー運転が解除されます。
2. ストップの運転を停止する場合は、再度運転スイッチを押して「切」にしてください。

UH-Fタイプ

ストーブ床暖房・サポートヒーター併用運転



1. 再度、タイマーボタンを押してください。
「タイマー」表示が消灯し、表示部に現在時刻が表示され(時計動作ドット点滅)、タイマー運転が解除されます。
2. サポートヒーターとストーブの運転を停止する場合は、再度運転スイッチを押して「切」にしてください。

灯油使用量

「今日」の灯油使用量を表示します。

灯油使用量ボタンを押すと表示部が灯油使用量の表示に切り換わります。

●今日の灯油使用量

3
今日 リットル

[例] 今日1日 灯油3リットル使用
今日の現在までの灯油使用量を表示します。
(午前0時から現在までの灯油使用量を表示します。)

●灯油使用量は1リットル単位で表示します。

※灯油使用量は小数点以下を四捨五入した数値を表示します。

●ご注意

- 現在時刻が合っていない場合、灯油使用量や使用日数が正しい値を表示しません。「現在時刻の合わせ方」(15ページ)を参照し時刻合わせを行ってください。
- 電源プラグをコンセントから抜いたり、停電があった場合は、今日の灯油使用量が「0」になります。
- 表示する灯油使用量はめやすです。使用状況によって実際の灯油使用量と異なる場合があります。

■灯油使用量の表示方法



●灯油使用量ボタンを押してください。

- 灯油使用量表示中に10秒間操作がない場合、通常表示に戻ります。
- 灯油使用量表示中はタイマー運転をセットできません。

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」の他に、次の項目についても注意してください。



警告

●給排気筒トップ閉そく危険

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。

ふさがれているときは、除雪してください。

また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。

閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



警告

●低温やけどに注意 (UH-Fタイプ)

長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。

比較的低い温度(40~60℃)でも低温やけどや脱水症状の原因となります。



注意

●高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部(枠上部、前面ガードなど)、排気筒(給排気筒トップ)に手などふれないでください。やけどのおそれがあります。



●小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。



注意

●長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

火災や予想しない事故の原因になります。



ストーブ周囲の注意

- ストーブ下面やふく射熱が強いストーブ前面付近などには熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。変色や変形したりすることがあります。

上面ガード、前面ガードを外したまま運転しない

- 上面ガードを取り外したり、前面ガードを開いたまま使用しないでください。誤って放熱器やガラス円筒などの高温部にふれますとやけどをします。また上面ガードをやむをえず取り外した場合は、必ずもとの状態に取り付けておいてください。

ガラス円筒には水をかけない

- ガラス円筒には水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。ガラスが割れ危険です。

雷発生時は電源プラグをコンセントから抜く

- 雷が発生したとき、雷(誘導雷)により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷(直撃雷など)の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

床暖房の床温調節 (UH-Fタイプ)

- 設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は設定室温または火力調節つまみで行ってください。カーペットの表面が熱くなりすぎないように設定床温には十分注意してください。

循環液の凍結予防(循環液の注入) (UH-Fタイプ)

腐食予防および凍結予防のために必ず循環液を入れてください。

- 腐食予防および凍結予防のために循環液は必ずコロナ床暖房用循環液(別売品)をご使用ください。他の不凍液を使用したり混合したりすると製品の寿命が短くなります。
- 循環液は3年をめやすに入れかえてください。(開封した循環液も含む)

5.使用方法(使い方)

自己診断モニタについて

故障・異常が発生するとその状態が表示部に記号表示(自己診断モニタ)されます。

「故障・異常の見分け方と処置方法」(25~26ページ)をご覧ください。記号表示に合った必要な処置をしてください。

(自己診断モニタ)

表示	原因	処置方法	表示	原因	処置方法
E1	途中消火	①	P1	ポット予熱不足	②
E2	不着火		P2	ポット温度低下	
E3	対震作動		P3	ポット異常過熱	
E5	排気管抜け検知作動		P4	不消火 (消火時間が長い)	
E6	ルームサーモ断線		F1※	熱交サーモ作動	①
E7	過熱防止装置作動 停電		F2※	湯温サーミスタ断線	
E8	疑似火災		F3※	湯温サーミスタ短絡	
E9	燃焼用送風機異常検出		HE	不完全燃焼防止装置検知部異常	③
EC	ルームサーモ短絡		HC点滅	不完全燃焼防止装置作動	
EE	停止時ポット異常過熱		HH点滅	連続不完全燃焼通知機能作動	
EQ	機内サーミスタ作動	HH点灯	再点火防止機能作動	④	

注) ※印は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

表示	表示理由・処置方法
BB	点検時期お知らせ機能(タイムスタンプ)が作動しました。 下記の「■BB表示 点検時期お知らせ機能について」を参照して、点検(有料)を依頼してください。

解除方法

- ① 運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
- ② お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
- ③ 直ちに部屋の換気を十分に、運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
- ④ 直ちに部屋の換気を十分に、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。

お願い

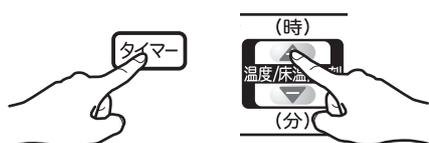
- お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡していただく際は、表示している自己診断モニタもお知らせください。

■ BB 表示 点検時期お知らせ機能について

- 本製品には点検時期お知らせ機能(タイムスタンプ)が搭載されています。
ストーブの使用時間が設計標準使用期間8年相当(20,000時間)になったら、表示部にBBを表示して点検時期をお知らせします。
- 経年劣化による重大事故を防止するために、忘れずに法定点検(有料)を依頼してください。詳しくは取扱説明書と同封されているちらし「お客様へ 大切なお知らせです。必ずお読みください。」をごらんください。
- 弊社 点検受付窓口(TEL0120-665-785)にご連絡してください。点検のご案内をさせていただきます。
・受付時間9:00~17:00(土・日・祝日、夏季休暇・年末年始など弊社の休日を除く)
- 故障ではありませんのでご使用できます。

ご注意

- 使用状況によっては点検時期お知らせ機能(タイムスタンプ)による点検時期お知らせ表示が、設計標準使用期間8年より早く表示することがあります。
- 点検後は使用時間が3年相当(7,500時間)の使用期間ごとにBBを表示して、点検時期をお知らせします。
安全に製品を使用していただくため、BBを表示した場合は、法定点検に準じた点検(有料)を受けることをおすすめします。
- 点検を受けていただくまでの間、表示部のBBを表示しないようにできます。
弊社 点検受付窓口にご連絡してから次のように操作してください。



1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
● 約3分ごとにBB表示が10秒間点滅します。
2. 温度設定ボタン「+」を押しながらタイマーボタンを5秒間押し続けてください。
● 表示部がBBから--に切り換わり、点検時期お知らせ表示BBを表示しなくなります。

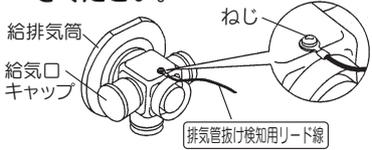
- 点検を受けずにご使用になった場合、上記操作後1年相当(2,500時間)になると再度BBを表示します。

6.安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。安全装置が作動して消火した場合は、ストーブと周囲の点検・処置を行ってください。すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。また、すべての処置は必ず、ストーブが消火し本体温度が十分下がってから行ってください。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
燃焼制御装置 点火安全装置 (フレイムロッド) (E1表示・E2表示) (途中消火) (不着火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 途中消火をしたとき ● 点火ミスをしたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ E1 表示または E2 表示 ・ ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ● 油タンクの送油バルブが閉じられていないか確認してください。 ● ゴム製送油管につぶれや空気だまりがないか確認してください。 ● 給排気筒トップが閉そくしていないか確認してください。 ● 定油面器の安全装置が作動していないか確認してください。 ● お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
対震自動消火装置 (E3 表示)	<ul style="list-style-type: none"> ● 強い地震（震度約5以上）や衝撃を受けたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ E3 表示 ・ ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ● ストーブの周辺や給気ホース・排気管の外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をしてください。（対震自動消火装置は自動的にセットされます。）
停電安全装置 (E7 表示)	<ul style="list-style-type: none"> ● 停電したとき ● 電源プラグが抜けたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・ 通電後自己診断モニタ E7 表示 ・ ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ● 通電後点火操作をしてください。 ● 電源プラグを確認してください。
過熱防止装置 (安全サーモスタット85℃) (E7 表示)	<ul style="list-style-type: none"> ● 対流用送風機のファンガードやストーブの前面がふさがったとき ● ストーブの前面に障害物などがあるとき  <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動的に消火 ・ ストーブが冷却された後自己診断モニタ E7 表示 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ● 処置をしても繰り返し作動するときは、一旦運転スイッチを押して「切」にし、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口に連絡してください。
不完全燃焼防止装置 ● ガスセンサー (HC 点滅表示) 連続不完全燃焼通知機能 (HH 点滅表示) 再点火防止機能 (HH 点灯表示)	<ul style="list-style-type: none"> ● 排気が室内に漏れ不完全燃焼防止装置が働いたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ HC 点滅表示 ・ 自動的に消火 <ul style="list-style-type: none"> ● 不完全燃焼防止装置が連続して4回作動し「連続不完全燃焼通知機能」が働いたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ HH 点滅表示 ・ 自動的に消火 <ul style="list-style-type: none"> ● さらに不完全燃焼防止装置（不完全燃焼通知機能）が連続して3回作動し、再点火防止機能が働いたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ HH 点灯表示 ・ 自動的に消火 ・ 再点火できません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 部屋の換気を十分にしてください。 ● 排気管が外れていないか、他の燃焼機器の影響を受けていないか確認してください。 ● 給排気筒のトップがふさがれていないか確認してください。 ● 部屋の換気を十分にしてお買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口に連絡してください。

7.その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
<p>排気管抜け検知装置 (E5表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 排気管の接続部が外れたとき ● 排気管抜け検知用リード線が外れたり、断線したとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ E5 表示 ・ ストープの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ● 給排気筒および排気管の接続部に、外れ・ゆるみがないか確認してください。 ● 排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、外れ・切れがないか確認してください。 
<p>燃烧用送風機異常 検出装置 (EA表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 回転数が異常に低下したとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ EA 表示 ・ ストープの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ● お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。
<p>機内サーミスタ (EQ表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 対流用送風機が異常停止したとき ● 対流用送風機のファンガードやストープの前面がふさがったとき ● ストープの前面に障害物などがあるとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ EQ 表示 ・ ストープの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ● 対流用送風機のファンガードの掃除・ストープ前面の障害物を取り除いてください。 ● お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
<p>※ 循環水過昇防止装置 (FI表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 循環液が減少したとき ● 循環液が循環しないとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタ FI 表示 ・ ストープの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ● 循環液を補給する等により循環水過昇原因を取り除いてください。 ● お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
<p>再点火安全装置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 消火直後、再点火操作したとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約2分間の冷却後でないとき点火動作に入らない 	<ul style="list-style-type: none"> ● ストープが冷えてから運転を行ってください。
<p>過電流防止装置 (表示部全消灯)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部配線のショートにより過電流が流れたとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ● お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
<p>※ サポートヒーター 過熱防止装置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 循環液が減少したとき ● 循環液が循環しないとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サポートヒーターへの通電を停止 (温度が下がると自動的に通電を再開) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転を一旦停止して、日常の点検・手入れ・循環液の補給 (24ページ) をしてください。 ● お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

注) ※印は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

8. 日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ストーブが十分冷えてから必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



- 故障・破損したら、使用しないでください。不完全な修理は危険です。
- 定期的(2年に1回程度)に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）



カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据付け例(30ページ)を参照してください。

■ほこり（使用ごと）

- ストーブにほこりが付いた状態で運転をしないでください。
- ストーブ外観のほこりや汚れは乾いたやわらかい布などできれいにふきとってください。ベンジン、シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

■油漏れ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

- 置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、点検してください。また、給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。
- 油漏れがある場合は、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換のめやす（シーズンの初め）



油タンクやゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。



- ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。屋外での使用は禁止されています。
- ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがなくても3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

- 油タンク内に水やごみがたまっていないか点検してください。油タンク内の水抜きおよび掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップ周囲の点検（使用ごと）



給排気筒(管・ホース)が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが漏れて、危険です。

- 給排気筒(管・ホース)が外れていないか確認してください。



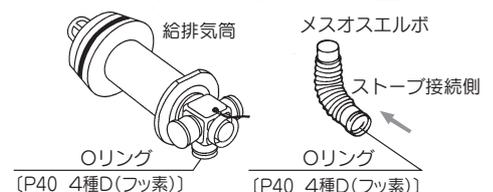
積雪が多いときには、給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。

- 除雪は、給排気筒トップの周囲を常に30cm以上あけて、風がよどまないようにしてください。
- 積雪や屋根から落ちた雪やつららにより、給排気筒トップがふさがれると燃焼不良の原因になります。閉そくすると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

- 給排気筒トップおよびトップ周囲に障害物が置かれていないか、ときどき点検し、障害物が置いてある場合は、移動してください。障害物が置いてあると排ガスを給気しやすくなり不完全燃焼や、運転が停止する原因になります。

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップ周囲の点検（1シーズン1~2回）

- 給排気筒がつまると不完全燃焼をおこします。シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。
- 給排気筒および、排気筒の接続部が外れたり、排気管抜け検知リード線が外れたり、断線していないか点検してください。



- 給排気筒を再び取り付けるときは、排気筒の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。破損していた場合は、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にて交換を依頼してください。
- 掃除をするときなどは給排気筒トップにホースなどで直接水をかけないでください。ストーブ内に水が入ると故障の原因になります。

8. 日常の点検・手入れ

■給気ホース・排気管の点検（シーズンの初め、適時）

- 給気ホース・排気管の接続部が外れていないか点検してください。
- 給気ホースが排気管にあたっていないか点検してください。

■結露水の処理（適時） （お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。）

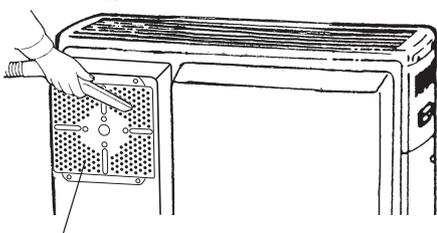
- 給排気筒トップより結露水がたれることがありますが無異常ではありません。
- 排気管に結露水がたまった場合は、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。

■定油面器のストレーナの掃除（1シーズン1~2回）

（お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。）

- 定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
水やごみがたまると灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなる場合や灯油が漏れるおそれがあります。
1シーズンに1~2回（シーズン初めなど）は、お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にご依頼してください。

■対流用送風機のファンガードの掃除（週に1回以上）

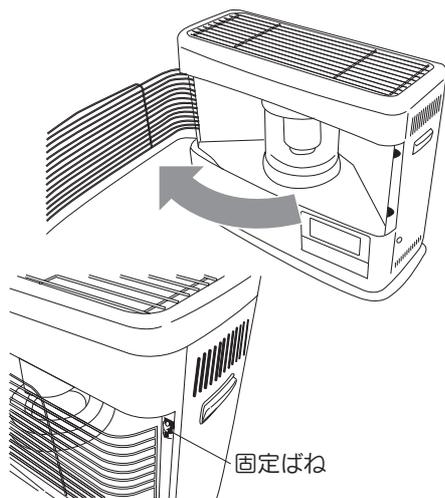


ファンガード

- ファンガードがごみやほこりで目づまりすると送風力が弱くなり排気温度が上昇する原因になります。（過熱防止装置（安全サーモスタット）または機内サーミスタの働きで運転が停止する場合があります。）次のようにストーブ裏面のファンガードの掃除を行ってください。

1. 対流用送風機が止まっていることを確認してください。
2. 掃除機などでファンガードについたほこりを吸い取ってください。

■反射板・ガラス円筒の掃除（適時）



【ご注意】 掃除は、ストーブを消火させ十分冷却してから行ってください。

熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

- 反射板およびガラス円筒にほこりがたまると反射効率が悪くなるばかりでなく危険です。

次のようにほこりを取り除いてください。

1. 前面ガードを右側の固定ばね（2個）から外し左側にまわしてください。
2. ガラス円筒を割らないように注意して掃除機などで反射板およびガラス円筒のほこりをきれいに掃除してください。
3. やわらかい布などで反射板およびガラス円筒をきれいにふいてください。
4. 掃除が終わったら、もとどおりに取り付けてください。

- 前面ガードは、確実に取り付けてください。

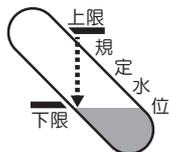
■ガラス円筒内部の掃除（適時） （お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。）

- 長期間の使用や油だまりによる大燃焼の後にはガラス円筒がすすけることがあります。
ガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、しばらくの間（約30分間）火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。

それでもすすを除去できない場合は、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

- ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えないように注意してください。

■ 循環液の補給 (適時) (UH-Fタイプ)



- シスターンタンク内の循環液は、少しずつ蒸発します。
- ストープ床暖房運転中またはサポートヒーター運転中にシスターンタンク内の循環液が少なくなると「給水」表示が点灯しお知らせ音 (ピピピッ) でお知らせします。(給水お知らせ)

- 「給水」表示が点灯した場合は、給水口扉を開き上限水位まで床暖房専用補充液を補給してください。
- 補給時は「満水お知らせ」の使用をおすすめします。上限水位まで補給すると満水お知らせ (お知らせ音 ピピピッ) が繰り返し鳴ります。

満水お知らせの使用法 (給水モードの入り方)

1. ストープの運転を停止してください。



2. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。



3. 床温調節ボタン5秒間押し続けてください。



- 表示部の「床暖」と「設定床温」表示が点滅します。

4. シスターンタンクの上限水位まで床暖房専用補充液を補給してください。

- 上限水位まで補給すると満水お知らせ音 (お知らせ音 ピピピッ) が繰り返し鳴ります。



- 床暖房専用補充液の補給は必ず水位計を確認しながら行ってください。

5. 補給が完了したら床温調節ボタンを押してください。



- 満水お知らせが停止します。

ご注意 ● 床暖房専用補充液は「上限」以上補給しないでください。使用中に循環液があふれることがあります。

- コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器 (ストーブ・床暖パネル・配管部品など) の防錆効果を目的に作られた循環液です。循環液はすでに純水で適度な濃度に調合してありますので、試運転時にはこのままストーブに入れてください。
- 他社銘柄の防錆剤、不凍液 (特に車両用など) を使用したり、混合したりすると防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに、沸騰してしまうことがあります。
- 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかるとうちがわることがありますので取り扱いには十分注意してください。
- 循環液は3年をめやすに入れかえてください。(開封した循環液も含む)
- 循環液の入れかえはお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。
- 循環液の凍結温度は、 -20°C に調合されています。

■ 温水配管の点検・交換のめやす (シーズンの初め、適時) (UH-Fタイプ)

- ストープ内部や温水配管接続部分から水漏れがないことを確認してください。
- パックチューブは経年変化しますので手で少し曲げ、ひび割れがないか点検し、ひび割れがあるときは交換してください。交換のめやすは3年に1度です。交換はお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

■ 地震などの災害が発生したときの点検について

- 地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
 - ・ 給排気筒周りの外れ、漏れの確認
 - ・ ストープの損傷点検
 - ・ 灯油配管からの漏れの確認
- 点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

9. 定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに点検を実施してください。点検のご相談は、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者 (一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会 (TEL03-3499-2928) でおこなう技術管理講習会修了者 (石油機器技術管理士) など) のいる店にご相談ください。

愛情点検



長年ご使用の密閉式石油ストーブの点検をぜひ!

こんな症状はありませんか

- 油漏れがする。
- 強い臭いがする。
- 運転中に異常な音がする。
- その他の異常や故障がある。

ご使用中止

故障や事故の防止のため必ずお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

10.故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現 象		説 明
点 火 時 ・ 消 火 時	初めて使用するときやシーズンの初めに煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	すぐに点火しない。	予熱点火方式のため予熱時間が2分程度必要です。 (予熱時間は室温により多少変化します。)
	燃焼開始時、火力調節時および消火時に「ピチピチ」や「カンカン」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にボンと音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。
	燃焼開始時に黄色い炎（赤火）が混じる。	異常ではありません。

■使用中に異常があったら次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや処置のむずかしいときはお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

※印部の現象・原因は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

原 因	現 象											
	E1 (途中消火)	E2 (点火しない)	E3 (対震作動)	E5 (排気管抜け検知)	E7 (過熱防止装置作動)	E8 (疑似火災)	E0 (機内サーミスタ)	F1 (熱交サーモ作動)※	HE (不完全燃焼防止)	HC (不完全燃焼防止)	HH (連続不完全燃焼)	HH (再点火防止機能)
電源プラグをコンセントに差し込んでいない												
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた			●									
送油バルブが閉じている	●	●										
定油面器の安全装置が作動している	●	●										
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●										
ゴム製送油管が折れていて、灯油が流れにくい	●	●										
定油面器に水、ごみがはいつている	●	●										
ルームサーモが室内温度を正しく検知していない												
給排気筒の設置が基準通りでない。排気管が長すぎる												
対流用送風機のファンガードにほこりがたまった					●		●					
給排気筒の工事が不適当のため排気ガスを吸いこんでいる	●											
燃焼リングが変形している												
給排気筒トップの先端がおおわれている	●											
油漏れがある												
給排気筒接続部が外れている。 排気管抜け検知用リード線端子接続部がゆるんでいる				●								
フレームロッドにすすが多量に付着した	●					●						
循環ポンプが故障している ※								●				
循環液が不足している ※								●				
温水配管がつぶれている。温水ジョイントのコックが閉じている ※								●				
停電があった					●							
不完全燃焼防止装置が故障している								●				
室内に排気ガスが漏れた									●	●	●	
バックアップ用電池の寿命												

10.故障・異常の見分け方と処置方法

現 象		説 明
燃 焼 時 ・ そ の 他	炎の一部が揺らぐ。青炎の中に黄色い炎(赤火)が混じる。	異常ではありません。
	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるため、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際に一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。
	タイマー運転中に表示部の表示が暗い。	待機時の節電のためです。異常ではありません。
	「カチカチ」音がする。	電磁ポンプの運転音で異常ではありません。
	ガラス円筒が白くなる。	灯油中の成分がガラス円筒に付着するためです。異常ではありません。
	ストーブ本体から水が蒸発する「ジュッ」という音がする。	結露水が熱交換器内部で蒸発する為です。異常ではありません。
	エコ運転中に消火する。 (「エコ」表示が点灯している)	室温調節のため消火しました。 14ページの「エコ運転」を参照してください。
	「給水」表示が点灯している。	循環液が少なくなりました。 「日常の点検・手入れ」(24ページ)を参照してください。
	表示部に BB が表示される。 点検時期お知らせ機能(タイムスタンプ)作動	ストーブの点検時期になりました。 19ページの「 ■ BB 表示 点検時期お知らせ機能について」を参照してください。

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

現 象	症 状
点火時・燃焼時・消火時に「ボン」という大きな音がした。	ストーブが損傷したりバックインが飛散しているおそれがあります。
黒煙を出して燃えている。	燃焼が異常になっています。
置台に灯油が漏れている。	ゴム製送油配管の締付バンドが締まっていない。

★表示部に自己診断モニタが表示されます。

										処 置 方 法	
炎が大きくなる	黒煙を出して燃える	ガラス円筒がすすける	音をたてて燃える	灯油のおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	床暖パネルが あたたまらない	※	※	※	電源プラグを差し直す 時刻表示が「-」と表示する
						●					電源プラグをコンセントに確実に差し込む
											ストーブの周辺や給気ホース・排気管の外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をする
											送油バルブを開く
											定油面器リセットボタンを押す
●											空気抜きをする(8ページ参照)
●											ゴム製送油管の折れを直す
●											お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
●											ストーブの周囲を確認して温風をまき込まないようにする
	●	●									お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
	●	●	●		●						ファンガードのほこりを掃除機などで掃除する
	●	●	●								お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
	●	●	●								お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
	●	●	●								お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
				●							お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
											お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
							●	●	●		お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
							●	●	●		規定水位まで補充液を入れる
							●	●	●		温水配管のつぶれを直す。温水ジョイントのコックを開く
											リセットしてから再点火操作をする
											お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口へ修理を依頼する
											直ちに部屋の換気をする 「不完全燃焼防止装置」(20ページ)の内容を点検する
										●	お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。電池がなくなってもバックアップ機能がはたらかないだけで、現在時刻を合わせれば通常どおり使用できます

11. 部品交換のしかた

■ 部品交換のときの注意

で注意

不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換はコロナ純正部品とご指定ください。

- コロナ純正でない部品を使用の場合には、本体の機能が損なわれたり、事故や故障の原因となります。また保証期間内であっても本体の保証が受けられません。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

項目	内容
使用期間により交換が必要な部品	ポットバーナ・点火ヒータ・燃焼リング・スケルトン フレームロッド・点火ネット・ガラス円筒・パッキン類および Oリング(メンテナンス時分解した場合は必ず交換が必要です。) 排気管接続用Oリング〔P40 4種D(フッ素)〕
環境により劣化しやすい部品	給排気筒関係部品・各種制御基板・燃焼用送風機 ガスセンサー・ゴム製送油管・対流用送風機
変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品	電磁ポンプ・定油面器・フレームロッド

12. 保管（長期間使用しない場合）

シーズン終了時などの長期間使用しないときは、日常の点検・手入れの項（22～24ページ）を参照し、次の要領で保管してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜いてください。

△注意 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

2. 油タンクの送油バルブを閉じてください。

3. ファンガードの掃除をしてください。（23ページ参照）

4. 本体のごみやほこりを取ってください。

- 掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

5. しめらせた布で本体の汚れを落としてから、からぶきしてください。

- ベンジン、シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。
塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

6. ストープは据付けたまま保管してください

- ストープ内の循環液を抜いて保管する場合は、エアー抜きバルブを開いておき、エアー抜きバルブ配管内も乾燥させてください。**(UH-Fタイプ)**
- 床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。**(UH-Fタイプ)**
- どうしても取り外して保管される場合は、ポリ袋をかぶせ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。
- 次シーズンに据付けるときには、必ずお買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口に依頼してください。

13.仕 様

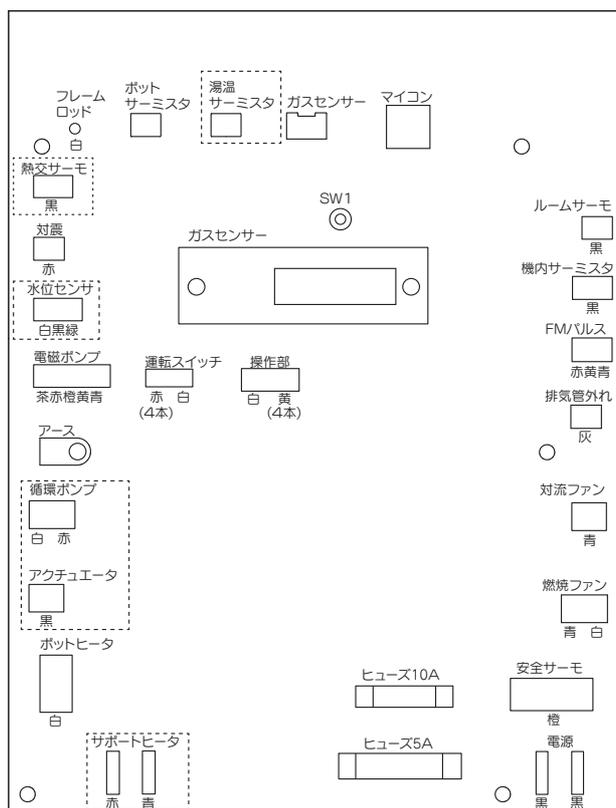
仕 様

※印は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

型 式 の 呼 び		UH-F7018PR(基本型式 UH-F7016PR)		FF-6818PR(基本型式 FF-6816PR)	
種 類	ポット式・強制給排気形・強制対流形・※床暖房用				
点 火 方 式	電気点火式				
使 用 燃 料	灯油 (JIS 1号灯油)				
燃 焼 状 態	最大		最小		最大
燃料消費量	床 暖 房 運 転	8.03kW (0.780L/h)	2.26kW (0.220L/h)		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	7.90kW (0.768L/h)	2.26kW (0.220L/h)	7.90kW (0.768L/h)	2.26kW (0.220L/h)
発 熱 量	床 暖 房 運 転	28,890kJ/h	8,150kJ/h		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	28,450kJ/h	8,150kJ/h	28,450kJ/h	8,150kJ/h
熱 効 率	床 暖 房 運 転	86.6%	83.8%		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	86.0%	78.2%	86.0%	78.2%
暖 房 出 力	床 暖 房 運 転	6.95 kW 循環水量 150L/h (1回路時) 循環水量 180L/h (2回路時)(別売品使用)	1.90 kW 循環水量 100L/h (1回路時・2回路時)		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	6.80kW	1.77kW	6.80kW	1.77kW
最大床暖房出力(床暖房運転)		最大燃焼時 1.51kW	循環水量 150L/h(1回路時) 循環水量 180L/h(2回路時)(別売品使用)		
サポートヒーター出力(サポートヒーター運転)		0.500kW 循環水量 100L/h			
暖 房 の め や す	床 暖 房 運 転	温 暖 地	木造 29.5㎡(18畳)まで コンクリート 41.5㎡(25畳)まで		
		寒 冷 地	木造 29.5㎡(18畳)まで コンクリート 48.0㎡(29畳)まで		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	温 暖 地	木造 29.5㎡(18畳)まで コンクリート 39.5㎡(24畳)まで		木造 29.5㎡(18畳)まで コンクリート 39.5㎡(24畳)まで
		寒 冷 地	木造 29.5㎡(18畳)まで コンクリート 46.0㎡(28畳)まで		木造 29.5㎡(18畳)まで コンクリート 46.0㎡(28畳)まで
本 体 水 容 量		2L (器具内蔵シスターン上限水位時)			
床暖房用熱交換器の最高使用圧力		シスターン大気開放			
外 形 寸 法		高さ 590mm 幅 760mm 奥行 354mm			
質 量		34kg		27kg	
電 源 電 圧 及 び 周 波 数		100V 50/60Hz			
定 格 消 費 電 力	床 暖 房 運 転	点火時 360/360W・最大燃焼時 53/58W 最大600/600W (点火初期に短時間発生)			
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	点火時 340/340W・最大燃焼時 30/28W 最大600/600W (点火初期に短時間発生)		点火時 340/340W・最大燃焼時 31/30W 最大600/600W (点火初期に短時間発生)	
	サ ポ ー ト ヒ ー タ ー 運 転	最大運転時 625/625W			
待 機 時 消 費 電 力		1.3W			
床パネルの接続面積	床 暖 房 運 転	4.5~16.5㎡(3畳~10畳)(最大燃焼時)			
	サ ポ ー ト ヒ ー タ ー 運 転	4.5㎡ (3畳)			
温 水 配 管 接 続 口		外径φ8mmニップル			
給 排 気 筒 の 型 式 の 呼 び		QU4-4			
給 排 気 筒 の 呼 び 径		D40			
給 排 気 筒 の 壁 貫 通 部 の 孔 径		φ75mm			
排 気 温 度	床 暖 房 運 転	260℃以下			
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	260℃以下		260℃以下	
電 流 ヒ ュ ー ズ		5A・10A			
安 全 装 置		対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置・不完全燃焼防止装置・停電安全装置・過熱防止装置			
そ の 他 の 装 置		再点火安全装置・排気管抜け検知装置・過電流防止装置・燃焼用送風機異常検出装置 機内サーミスタ・※サポートヒーター過熱防止装置・※循環水過昇防止装置			
付 属 品		※パッキューブ2.5m・※ホースバンド2個・本体固定金具2個・給排気筒セット1組 スリーブ1個・遮熱板1個・ゴム製送油管締付バンド2個・取扱説明書・工事説明書・所有者票			

備考) 暖房のめやすは、一般社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板 端子配置図



注) 印端子部は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

14.アフターサービス

■保証について

- このコロナ密閉式石油ストーブには保証書がついています。保証書は、必ず「お買いあげ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間はお買いあげ日から1年間です。
- 次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
 - ・変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
 - ・誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるとき

- 「故障・異常の見分け方と処置方法」(25~26ページ)の項に従ってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - ① 品名
 - ② 型式の呼び
 - ③ お買いあげ日
 - ④ 故障状況(できるだけ具体的に)
 - ⑤ ご住所・お名前・電話番号
 ・品名と型式はストーブに向かって左側面に表示してあります。
- 修理に際しては、保証書をご提示ください。保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。

■保証期間が過ぎているときは

- お買い求めの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間

- 石油ストーブの補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)の保有期間は製造打ち切り後7年です。

15.据付け・移設

据付け・移設工事は販売店に依頼する

据付けや移設工事は、販売店または据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

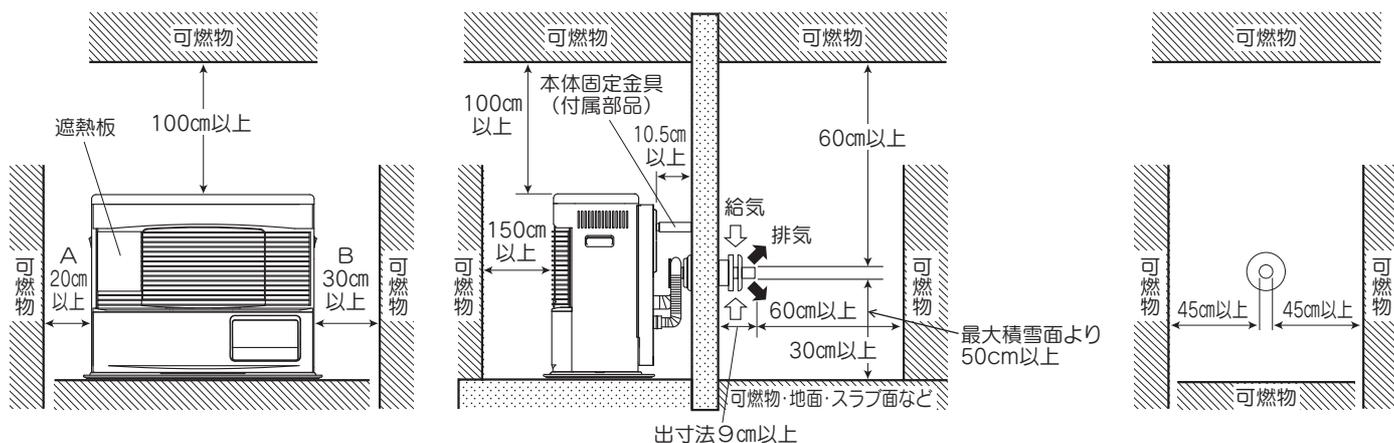
据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、販売店または据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

ご注意 ●マントルピースやペチカに据付けないでください。給排気筒をペチカに接続しないでください。ストーブが故障したり、火災や予想しない事故の原因になります。

標準据付け例

ストーブの据付けは下図を満足させる位置に取り付けてください。

- 遮熱板を取り付けない場合は、A寸法を30cm以上にしてください。
- 点検・手入れのため、B寸法を30cm以上にしてください。



※上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離をとってください。

- テレビやラジオから1m以上離してください。
- 側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45cm以上とってください。
- 前方に塀や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60cm以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
- 給排気筒下面は地面から30cm以上離すようにしてください。なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがれるおそれのない高さを確保してください。
- 雪の多い地方では、最高積雪面より50cm以上離れる場所に、給排気筒を取り付けてください。
- 木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電氣的絶縁をしてください。
- 壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらぬ場所を選んでください。

給排気筒を延長する場合の注意

- 給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

- 給排気筒トップが雪でふさがれない場所に設置してください。落雪により給排気筒トップがふさがれたり破損するおそれのある場所には設置しないでください。また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで異常燃焼を起こすことがあります。

据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

15. 据付け・移設

試運転

試運転は販売店または据付業者とご一緒に必ず行ってください。

■ 運転準備

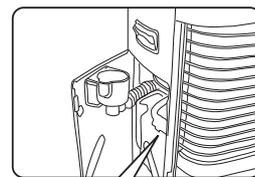
⚠️注意 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

- 現在時刻を確認してください。現在時刻がずれている場合は、「現在時刻の合わせ方」(15ページ)を参照し、合わせてください。
- 油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。「■燃料切れの注意と空気抜きの方法」(8ページ)を参照してください。
- 送油経路やストーブより油漏れがないか確認してください。
- 配管途中にバルブなどがある場合には、全開にしてください。
- 定油面器をセットしてください。「■安全装置のセット、取扱い上の注意」(9ページ)を参照してください。
- シスターンタンク内に循環液がないときは、循環ポンプを運転させないでください。故障の原因になります。

■ 循環液の給水方法 (UH-Fタイプ)

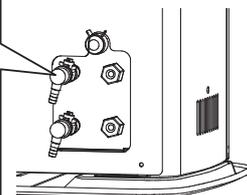
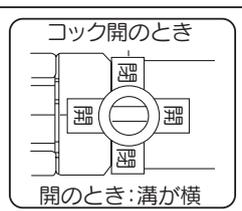
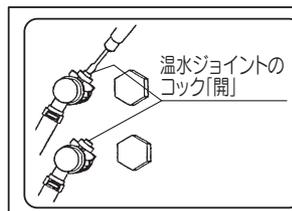
● 循環液の給水で循環ポンプを運転するときは、手順4と5の方法で行ってください。

ご注意 サポートヒーターボタンは使用しないでください。故障の原因になります。



1. 給水前にエア抜きバルブが全開になっていることを確認してください。
(工場出荷時には全開になっています。)

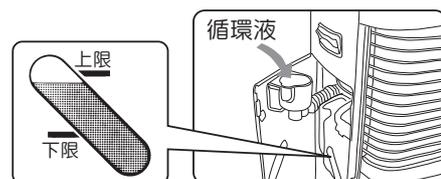
2. 両方の温水ジョイントのコックを「開」にしてください。



● 配管途中にバルブがある場合は、バルブを全開にしてください。

3. シスターンタンクの上限水位まで循環液を入れてください。
4. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
5. 床温調節ボタン5秒間押し続けてください。(給水モード)

- 循環ポンプが運転を開始します。
- 表示部の床暖と設定床温表示が点滅します。



● 水漏れがあった場合は、床温調節ボタンを押して循環ポンプを停止させてください。

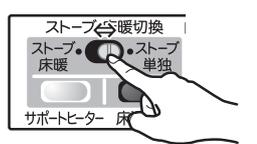


6. シスターンタンクの水位が下がるので上限水位まで循環液を給水してください。
(シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を行ってください。)

● 上限水位になると満水お知らせ(お知らせ音 ピピピピッ)が繰り返し鳴ります。

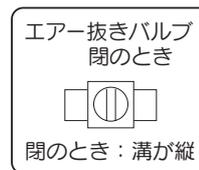
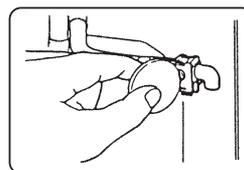


● エアーが抜けきらない場合は、床暖切換スイッチを「ストーブ単独」⇔「ストーブ床暖」側に何度か切り換えてください。循環ポンプの「入/切」が行えるので、エアが抜けやすくなります。



満水お知らせはめやすです。循環液の補給は必ずシスターンタンクの水位計を確認しながら行い、規定水位の「上限」以上補給しないでください。使用中に循環液があふれることがあります。

7. シスターンタンクの水位が下がらなくなったらエア抜きバルブを必ず「閉」にしてください。



8. 温水配管路に水漏れのないことを確認してください。

9. 水漏れのないことを確認したら給水は完了です。
床温調節ボタンを押してください。



- 循環ポンプが停止します。
- 表示部の「床暖」と「設定床温」表示が消灯します。
- 満水お知らせが停止します。

■運転 ※印は(UH-Fタイプ)のみ対象です。



※1. 床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」にセットしてください。

2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。

- 「運転中」表示が点滅します。
- 約3～4分間の予備燃焼が終わると「運転中」表示が点灯に変わり本燃焼になります。着火までに異常がないことを確認してください。
- 予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。この間は火力の変更はできません。

※3. 温水配管経路に水漏れのないことを確認してください。

- ※●運転の途中で温水配管経路に水漏れがあった場合
- ①操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切り換えて循環ポンプを停止させてください。
 - ②運転スイッチを押して「切」にしてストーブの運転を停止してください。

4. 火力調節つまみを「微小」～「大」に設定してください。

- 燃焼中の炎に黄色い炎（赤火）が混じったり、かたよったり、上下変動することがありますが、異常ではありません。

※5. 床暖パネルが暖くなることを確認してください。

- 正常運転のめやすとして「10.故障・異常の見分け方と処置方法」（25～26ページ）のような現象のないことを確認してください。

■消火の手順 ※印は(UH-Fタイプ)のみ対象です。



- 運転スイッチを押して「切」にしてください。

「運転中」表示が消灯し、消火します。

消火後は、本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機、対流用送風機、※循環ポンプが停止します。

お願い

- 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

⚠️注意 初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合がありますので、この間は部屋に入れしないでください。

- お部屋の窓を少し開け、半日から1日程度「大火力」運転をしてください。

MEMO



お客様ご相談窓口

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記の窓口にご依頼ください。

電話番号は変更する場合がありますのでご了承ください。

コロナサービスセンター（全国共通番号 365日24時間受付）

TEL フリー
 ダイヤル  **0120-919-302**

携帯電話 ナビ
PHS ダイヤル  **0570-550-992**

ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります。

コロナ 石油ストーブ保証書

型式	ご購入機種に○を付けてください。	
	FF-6818PR	UH-F7018PR
★ お 客 様	お名前	様
	ご住所 〒	()
	電話 ()	

本書は、本書記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。

お買いあげの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買いあげの販売店に修理をご依頼ください。

●ご販売店様へ
お買いあげ日、貴店名、住所、電話番号をご記入の上（★印欄に記入のない場合は、無効となります）、本書をお客様へお渡しください。

見本

★お買いあげ日	年 月 日	★	住所・店名
保証 期間	対象部分 本 体	販売 店	
期間 (お買いあげ日より)	1 年		電話 () -

●お客様へお願い

お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をわかりやすくご記入ください。

販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

《無料修理規定》

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間中に故障した場合には、お買いあげ販売店が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示のうえ、お買いあげの販売店に依頼してください。なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理をおこなった場合には、出張に要する実費を申し受けます。また、本品を直接送付される場合の送料は、お客様の負担となります。
- ご転居の場合は事前にお買いあげ販売店にご相談ください。
- ご事情により、本保証書に記入してあるお買いあげ販売店に修理をご依頼できない場合には、お客様ご相談窓口（本書34ページに記載）にお問合せください。
- 次の場合には保証期間内でも保証の対象外となります。
 - (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (ロ) 取扱説明書、本体表示等によらないで使用された場合、または適切な点検・手入れを行わなかったことにより発生した不具合
 - (ハ) お買上げ後の取付場所の移動、輸送、落下等による故障および損傷
 - (ニ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害および、変質灯油、不純灯油、異質油（灯油以外の油又は混入）による故障および損傷
 - (ホ) 業務用としての使用、車両、船舶への搭載など一般家庭用以外に使用された場合の故障および損傷
 - (ヘ) 本書にお買いあげ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売などでご購入したときは、商品の送り状・領収書などの提示がない場合。
 - (ト) 据付け工事の不備による故障
 - (チ) 本書の提示がない場合
 - (リ) 点検整備、および消耗品（Oリング、各種パッキン類、ゴム製送油管）の交換をされる場合
 - (ヌ) 定期点検の費用
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This guarantee is valid in Japan only.
- 本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

従ってこの保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口（本書34ページに記載）にお問合せください。

※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書(本書29ページに記載)をご覧ください。

※アフターサービスや製品についてのお問い合わせは、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口（本書34ページに記載）にお問い合わせください。

株式会社 **コロナ**

〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7
TEL(0256) 32-2111 <代表>

ホームページ <http://www.corona.co.jp/>